

令和6年度 学校評価報告書

小樽市立朝里中学校
校長 大山 倫生

【自己評価】

数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価
A: 100%以上
B: 80%以上100%未満
C: 80%未満

【学校関係者評価】

学校の自己評価に対し、以下の基準で評価
◎: 適切である
○: おおむね適切である
△: 適切でない

1 本年度の重点目標

自分で考え、行動する生徒の育成 ～わかった！できた！もっとやりたい！～

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	生徒アンケートにおいて「国語・数学の授業内容は分かる」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上とする。	A	全国学力・学習状況調査問題等の解答傾向を分析し、個別最適な学びや協働的な学びの体系的な充実を図った授業改善に取り組んだ結果、肯定的な回答をした生徒の割合は87.9%であった。	◎
	特別支援教育の充実	特別支援学級の保護者のアンケートにおいて、「お子さんは、学校での学習を通して、生活上・学習上のつまずきを自分から改善する力を高めている」という問いに対して、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上とする。	A	生徒の発達段階を教員が分析し、適切な支援を講じたり、機会を見つけ、保護者と生徒の実態を共有し指導に当たった結果、肯定的な回答をした保護者の割合は100%であった。	◎
	国際理解教育の充実	生徒アンケートにおいて「英語の授業ではALTとの授業を通して、学びが深まっていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上とする。	A	ALT来校時には、ほぼ英語による授業を行うとともに、アクティビティーを充実させた結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、94.7%であった。	◎
	理数教育の充実	生徒アンケートにおいて「理科の授業では観察や実験などを通して、学びが深まっていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上とする。	A	実験を通して、個人で仮説を立て、グループで考察したり、仮説を検証したりする過程を充実させた結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、99.6%であった。	◎
	情報教育の充実	生徒アンケートにおいて「名前や顔写真などの個人情報は公開しない」と回答する生徒の割合を95%以上とする。	A	警察署職員を講師にした非行防止教室やスマホ・ケータイ安全教室等で外部講師を招聘し指導を行った結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、99.1%であった。	◎
	キャリア教育の充実	「未来をつくる力 キャリアパスポート」を活用し、生徒アンケートにおいて「以前よりもなりたい大人のイメージがもてた」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上とする。	A	学期始めや終了時等にキャリアパスポートを活用して短期・中長期的な意識付けを行った結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、76.2%であった。	◎
改善方策		確かな学力の育成に向け、個別最適な学びと協働的な学びの体系的な充実に向け、今後とも授業改善を通して、取組をより一層充実させる。また、肯定的な回答の割合は高まってきたが、最上位評価の割合を高めるよう、課題意識をもって全教員で取り組む。			
学校関係者評価委員による意見		「情報教育の充実」について、肯定的な回答をした生徒が99.1%であったことから、100%に到達するようより一層の指導を願う。「キャリア教育の充実」について、質問文にある「なりたい大人のイメージがもてた」に係り、教員がどのような手立てを講じて生徒にイメージをもたせようとしたのか、その工夫と生徒の持ったイメージについて自由記述欄をつくるなどして教員の手立てや生徒の考えを聞いてみたい。			
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	生徒アンケートにおいて「自分にはよいところがある」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上とする。	A	学校の教育活動全体を通して、心理的安全性の担保や、違い、多様性を認め合える学級・教科経営に取り組んだ結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、85.9%であった。	◎
	ふるさと教育の充実	生徒アンケートにおいて「自分は今住んでいる朝里地区(小樽市)が好きだ」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上とする。	A	朝里地区の地域研修や小樽市内の研修などで、CS委員や保護者の人脈を有効に活用した結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、93.0%であった。	◎
	読書活動の推進	生徒アンケートにおいて「読書が好きだ」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上とする。	B	生徒会図書専門委員会がイベントを企画したり、担当教諭が読み聞かせ会などの独自のイベントを企画したりした結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、61.7%であった。	◎
	体験活動の推進	生徒アンケートにおいて「旅行型研修の体験活動や清掃活動等のボランティア活動、地域の行事などに積極的に参加した」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上とする。	B	旅行型研修の際の体験活動や校区の清掃活動、CSの防災訓練などのボランティア活動に取り組んだ結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、70.0%であった。	◎
	コミュニケーション能力の育成	生徒アンケートにおいて「友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上とする。	A	校内研修で「教えずがない授業」をテーマに個別最適な学びや協働的な学びの体系的な充実を図った授業改善に取り組んだ結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、96.5%であった。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	全国学力・学習状況調査の生徒質問調査等において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を100%とする。	B	いじめアンケートを毎月実施し、積極的ないじめの認知に努めるとともに、学級や学年集会等で啓発に努めた結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、93.7%であった。	◎
改善方策		読書活動の推進については、引き続き担当教諭と生徒会図書専門委員会の活動を連携させながら改善に向けて取り組む。また、体験活動の推進については、生徒に対して事前に目的の周知や事後の振り返りの充実など学習サイクルの改善に努め、より一層の充実を図る。いじめの未然防止や不登校児童生徒の支援の充実について課題がみられたことから、引き続きいじめを許さない啓発活動に全教員で取り組む。			
学校関係者評価委員による意見		「読書活動の推進」について、学校図書館がより一層愛されるようになるよう、館内の環境整備や蔵書の整備に努めてほしい。「体験活動の推進」について、「ふるさと教育の充実」の値が高いことから、地域のことが好きであれば地域行事への参加率も連動して高くなるはずなので、学校運営協議会としても子どもたちの学びが深まる魅力あるイベントについて今後も考えていきたい。「いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実」について、肯定的な回答をした生徒が93.7%であったことから、100%に到達するようより一層の指導を願う。			

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	生徒アンケートにおいて「体力や運動について自分の課題を克服するために努力している」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上とする。	A	生徒が新体力テストを自己分析し、自身の課題を改善するため、試行錯誤をさせながら、保健体育の授業に取り組ませた結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、94.7%であった。	◎
		食育の推進	保護者アンケートにおいて「家庭ではお子さんがバランスのよい食生活を送ることができるよう心がけている」の問いに対して肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上とする。	A	保護者に対して、PTA総会や学年会、給食だより等において食育の啓発に取り組んだ結果、肯定的な回答をした保護者の割合は、93.2%であった。	◎
		健康教育の充実	生徒アンケートにおいて「薬物乱用防止教室を通して、薬害の怖さについて理解することができた」の問いに対して肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上とする。	A	保健体育の授業や外部講師として警察署職員を招聘した非行防止教室等を計画的に実施した結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、99.1%であった。	◎
改善方針		体力・運動能力の向上については、新体力テストにおいて全国平均を下回っている種目があることから、引き続き生徒一人一人が自身の課題の改善に向けて取り組む。また、その際には、望ましい運動習慣の確立に向け、家庭との連携を図る。				
学校関係者評価委員による意見		「健康教育の充実」について、薬害の怖さについて理解することができたと肯定的な回答をした生徒が99.1%であったことから、100%に到達するようより一層の指導を願う。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	保護者アンケートにおいて「家庭での学習(学習塾なども含む)について、お子さんに積極的に取り組むよう指導していますか」の問いに対して肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上とする。	A	家庭学習の必要性や生徒の実施状況等を学級通信や放課後学習通信等を活用し、保護者へ協力を呼びかけた結果、肯定的な回答をした保護者の割合は、84.6%であった。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	保護者アンケートにおいて「学校は、保護者・地域と関わり、願いを生かした教育活動を行っている」という問いに対して、肯定的な回答をする保護者の割合を70%以上とする。	A	学校の教育活動やCSの活動内容を保護者や地域に発信するなどの取組をした結果、肯定的な回答をした保護者の割合は82.1%であった。	◎
改善方針		家庭との望ましい連携を図るため、学校だよりや学級通信、放課後学習通信等を効果的に活用し、より一層啓発活動に努める。地域との連携については、引き続きCS委員等と連携し、地域の人的・物的資源の発掘を行い、それを教育課程に反映させることができるよう努める。				
学校関係者評価委員による意見		「家庭教育支援の充実」について、家庭における子どもの実態を把握した上で、学習を促す適切な声かけなどの支援を家庭でもより一層充実させていく必要がある。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	教職員アンケートにおいて「小中一貫教育の必要性を感じる」という問いに対して、肯定的な回答をする教職員の割合を75%以上とする。	A	小中合同研修会で、全ての教員が参加する部会活動において、小・中学校の教員で話し合う機会を充実させた結果、肯定的な回答をした教員の割合は87.5%であった。	◎
		教育環境の整備・充実	生徒アンケートにおいて「教室や特別教室、体育館、グラウンドなど学校施設は、使用しやすく快適なものとなっていますか」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上とする。	A	今年度はエアコンの整備が行われたとともに、用務員と連携し、校舎内外の営繕に取り組んだり、懸案事項であったトイレ改修が完了した結果、肯定的な回答をした生徒の割合は96.0%であった。	◎
		教職員の資質・能力の向上	教職員アンケートにおいて「校内や校外などの研修に参加し、教員としての資質や能力が高まったと思う」という問いに対して、肯定的な回答をする教職員の割合を75%以上とする。	A	新たな研修制度の下、期首・期末面談等において、キャリアステージに応じた研修の受講奨励を行った結果、肯定的な回答をした教員の割合は87.5%であった。	◎
		学校運営の改善	教職員アンケートにおいて「本校は、昨年度の課題を分析し、校務を改善しようとする働きがいのある職場である」という問いに対して、肯定的な回答をする教職員の割合を75%以上とする。	B	教育課程アンケートを実施し、課題を洗い出し、各分掌部会で改善に向けて協議した結果、肯定的な回答をした教員の割合は68.8%であった。	◎
		学校安全教育の充実	生徒アンケートにおいて「理科や社会の授業や避難訓練、防災講話などを通して、自分は災害時にどのような行動をとればいいのか理解している」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上とする。	A	教科指導や避難訓練、防災講話、外部講師を招聘した防災教室を実施し、防災意識を高める取組を充実させた結果、肯定的な回答をした生徒の割合は96.9%であった。	◎
改善方針		学校段階間の連携・接続の推進については、小中合同研修会において昨年度から始まった全教員が所属する各部会活動が充実したことにより、連携の意義を感じた教員が増加したことから、引き続き中学校区の課題の改善に取り組む。また、教員の資質・能力の向上については、教員の授業を見学する機会を増やし、それぞれの教員の弱み・強みの把握に努め、教員との面談する機会を多く確保し、研修の受講奨励を積極的に行う。学校運営の改善については、教育課程アンケートで洗い出された課題を確実に修正・改善し、校務分掌業務のより一層の精選を図る。				
学校関係者評価委員による意見		「学校運営の改善」について、達成状況が伸び悩んでいるのは、教員一人当たりが抱えている負担の大きさと日々の業務に忙殺されているなどの理由が考えられる。教員が仕事がしやすくなるように、教員定数の改善や教員を補佐する外部人材の確保などの環境整備を強く要望する。				
社会教育に関連する目標 (目標6～8)			生徒アンケートにおいて「総合博物館や美術館などの施設で文化芸術作品を鑑賞することが好きだ」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上とする。	B	市内研修などの旅行型研修の際に社会教育施設の見学を行ったり、美術などの教科で鑑賞することの意義について指導した結果、肯定的な回答をした生徒の割合は66.5%であった。	◎
改善方針		旅行型研修だけでなく、各教科の教育課程に美術や音楽等に直接触れる機会を意図的に設ける。				
学校関係者評価委員による意見		総合博物館や美術館などに限定するだけでなく、音楽を鑑賞するという要素も入れてみてはどうか。また、保護者も子どもが普段から芸術にふれるような環境づくりを整えることが大切である。子どもたちが芸術にふれるきっかけづくりを大人も考える必要がある。				